A 205　「食」についての調査（第一報）-----食意識について

山脇学園短大　○露木久恵　相川りえ子

目的　「食」に関する意識は著しい社会変化と共に異なってくるものと考えられるが、現在父親、母親がどのような意識をもち、さらにそれらに年代別の差がみられるか、また父親、母親に共通の意識が存在するか、それらについて知るため調査を行った。

方法　調査対象者（本学学生の父親115名、母親120名、小学生父親211名、母親227名）に対し調査用紙を配布、集計を行った。調査時期　本学学生・昭和56年10月、小学生の両親・56年7月。（本学学生については昭和55年にも同じ調査を実施した。）

結果　父親の調査項目は8項目、母親は10項目である。父親については72.4％が外食より家で食事をすることを望んでおり、50才代がそれを最も高く望んでいる。次いで60.4％が食事中の行儀についてであり、これは年代別の差はみられなかった。栄養についての意識はわずか18.1％であった。母親については朝食を必ずとらせるが90.8％と最も高く、年代に差はみられなかった。次に緑黄色野菜をとるように心がけている89.3％、食事中の行儀78.4％、2項目とも年代の差はみられなかった。食事中の行儀については両親ともに意識が高く、家族そろって食事をしたい項目については40才代の母親が最も高くそれを望んでいる。インスタント食品・加工食品を使わないようにしている57.3％、間食をひかえ目にして食事をきちんととらせている58.8％、料理の味つけについては父親の意識がやゝ高く、40才代より50才代が高くなっている。